

てもデータが残っているということなので。そういうことは、今回の課題として進めている。
(岩手・釜石市 薬剤師)

緊急の時は、往診に行くために携帯の電話番号も保健師のグループに公開していた。うまく機能したのは、全体のいろんなグループの会議があったのと、それから、病院の中で朝のミーティングと夕方のミーティングを毎日やったというのが大きかった。
(岩手・陸前高田市 医師)

岩手宮城内陸地震ですと、何回か2~3年おきに大きな地震を経験してましたので、災害用の備蓄ボンベというのを持っていた。停電が3日も4日もわたる長期の時というのは、液化酸素が理想的。今回の経験上、24時間か36時間以内だったら1回は患者さんのもたに顔を出せるかなという感じだったので、電気もなくても吸えるぐらいの酸素量を患者さんのところへ置いておこうということで、通常のバックアップのほかに2次バックアップというのをつくり、ちょっと大きい酸素ボンベを専用の箱をつくってちょっとお部屋に置いてもらって、それを使えば、とりあえず大体24時間は誰も来なくても酸素の心配はないよという状態にしている。(岩手・北上市 酸素供給会社)

自宅が壊れていなかったら、病院に入院させる優先順位は先にならない。そういう人って、どうすればいいの。避難所で在宅継続できない。優先順位1番といったら負傷した人になってしまう。やはり今後、在宅医療の展開が増えていくと、いわゆる弱者というか、脆弱な人たちをどうするかを考えていく。
(岩手・北上市 医師)

災害が発生した際に必要となる医薬品というのは、災害発生直後から3日くらいまでとそれ以降では、需要が大きく異なってくると予想される。震災後3日目くらいまでとそれ以降、さらに、避難所生活が長期化する場合は3通りに分けて医薬品などの確保の方法を考えておく必要があると考えている。
(岩手・北上市 医薬品MS)

患者さんを訪問診療とか訪問看護とかする場合、受け入れの時点からある程度トリアージカラーをつけておき、その中でさらに細分化してナンバリングしておくような作業を最初からしておかなければならない。(岩手・北上市 医師)

在宅医療のいろいろな多職種のネットワークがあれば、それは震災が起きても強いだろう。(他の職種の動き方を)分かっている動くのと、分からなくて(自分が)がむしゃらにやったというのでは差が出る。旧

市町村単位ぐらいのネットワークは維持したうえで、全体のネットワークをつくればいい。
(宮城・石巻市 医師)

被災者を受け入れてくれる施設がどこにあるの分からない。この地区の人たちはこの施設に何かあったら、受け入れてもらうっていうのを、何も起きてない時に連携をとっていってこういうようなことのお約束が望ましい。(宮城・南三陸町 保健師)

3. 震災時の安否確認体制と安全対策

震災時の安全対策として、行政から「ライフキット」(病名、薬、緊急連絡先が記載され、冷蔵庫で保管しておくもの)が配布されるようになったことが語られた。医療従事者も自身の安全の確保のために避難することがあることを、利用者に伝えるようになった施設もある。また、住民自身も日頃から災害に備えておくこと、近隣住民と互いに助け合える環境をつくることも重要であると語られた。

災害にあって、その時はやっぱり自分たちがその場に居合わせてこの人を助けなきゃならないって普通は思う。自分が逃げることができない。自分も、もしかしたら津波でのまれるかもしれない。自分たちの身の安全を第一にしようっていうことは、ステーションの職員で話を。まず自分で安全を確保すると。自分の判断で逃げよう。あと、利用者さんにも何かやっぱり出さないで、逃げますって文章、皆さんに出して、皆さんの安全も確保するけど私たちも安全なところに避難させていただきまますよ。ご了承ください。みだいな新規の人には皆もう選んで対応しています。(宮城・気仙沼市 訪問看護師)

早めにさまざまな支援を行いたくても、避難所や福祉避難所を支援する職員も、被災した状態で行っている状態です。災害がまた来た時に、どこに逃げようかと、どこに相談しようかとかっていうのが、各自もってないと、やっぱり誰かの世話にならうっていうことではなくて、やっぱり私はこの薬を飲んでいるという、各自の覚悟をもってなきゃいけないのになって思います。(宮城・南三陸町 保健師)

隣近所というのが今まで疎遠だったのが、あそこにはお老人がいるとか、いろんなところでいろいろ支援している姿が多く見られたかなと思います。近所の神社に水を貰いに行こうと思って、ペットボトルとか何か持って歩いてると、近所の人「うちの水、持っていっていいよ」って言われるし、住民自身のお隣さん付き合っていて助け合いをしていく必要がある。
(福島・郡山市 訪問看護師)

災害の経験から、安否確認用に行政からライフキットというのが配布されているところがあります。透明の筒にその方の情報、全部入れたものを冷蔵庫に入れておくんです。どなたが来ても、冷蔵庫開けるとそこに情報が入っているということが分かるらしいんです。冷蔵庫はどこにもあるんで、重症の疾患の方はそれをやっていますね。その人の病名と、お薬と、緊急連絡先が書いてあるの。
(福島・いわき市 訪問看護師)

まとめ

建物の倒壊による重傷患者が多かった阪神・淡路大震災と違い、東日本大震災では津波による被害がほとんどで、死者・行方不明者が多数を占めた。そのため、求められる医療も、外科的な治療、超急性期の医療というより、悪化した慢性期疾患患者への対応、透析や在宅酸素など生命をつなぐための医療が主となった。

全体的に、がん治療・在宅医療・緩和ケアに関する問題は、震災直後の急性期には目立って体験されなかった。病院などの施設内では、がん患者に関して治療の継続をどのようにすべきかの対応や、がん患者の安否確認方法の困難さが挙げられた。在宅医療においては、がん患者に限らず訪問診療・訪問看護を行ううえでの交通手段（ガソリン・車）や利用者の安否確認の困難さ、停電による医療機器への対応が挙げられた。入院が必要とされる在宅療養患者がいても、病院では震災による緊急患者対応が優先され、在宅療養を継続しなければならないケースや、入院・入所できる施設を探すなどの対策が行われた。避難所では、医療支援チームが巡回診療をしていますが、がん患者のピックアップはできず、対応できない状況であった。

本研究では、東日本大震災を体験したがん治療・在宅医療・緩和ケアに関わる医療福祉従事者の体験を収集した。体験の中には伝聞や推測が含まれているが、本研究では、個々の真偽を確認することはしなかった。また、対応策として系統的なものを作成することも目的としなかった。本研究の最終的な目的は、本研究によってまとめられた体験が、今後の大規模災害の準備をするための基礎資料となるとともに、現場で働く1人ひとりの医療福祉従事者が体験を知ることによって、次の大規模災害が生じた時の「現場で応用のきく知識」となることである。

最後に、本研究にあたりまして、震災後まもない時期に時間をさいて個人の体験をお話しお伝えくださった、インタビュー対象者の皆様に感謝いたします。

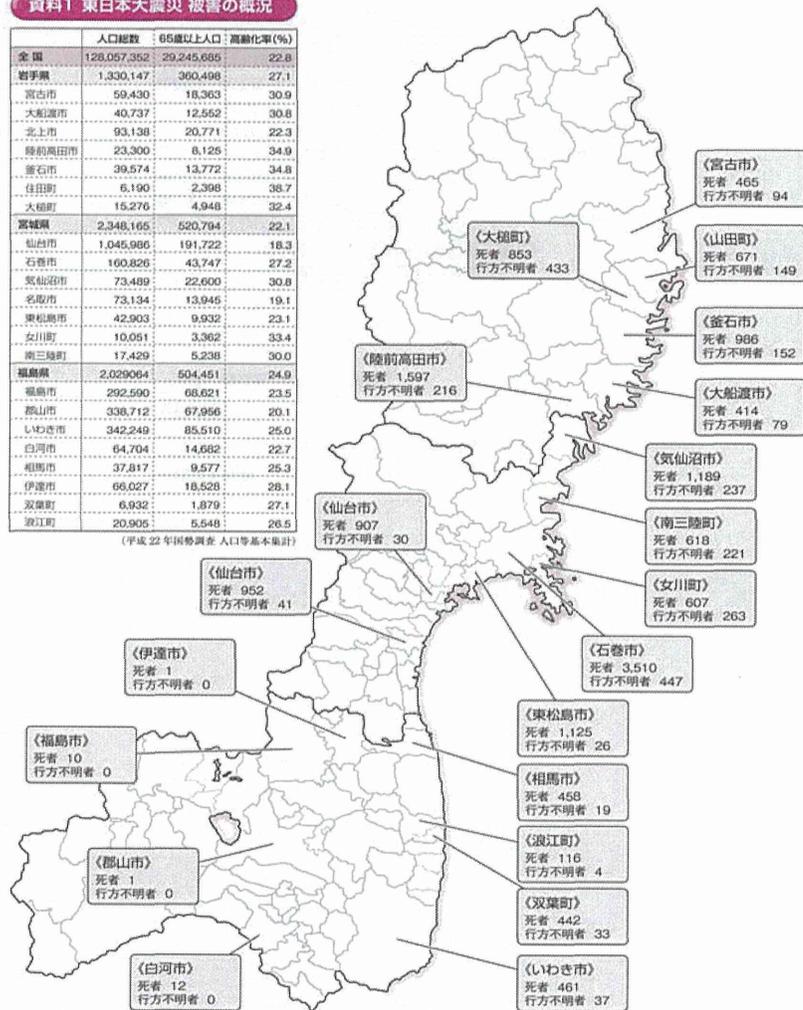
本研究の学術的成果は以下の論文として発表されています。

菅野喜久子、木下寛也、森田達也、佐藤一樹、清水 恵、秋山聖子、村上雅彦、宮下光令、東日本大震災の被災沿岸地域の医療者へのインタビュー調査に基づく災害時におけるがん患者の緩和ケア・在宅医療の在り方に関する研究、Palliat Care Res (in press)

資料1 東日本大震災 被害の概況

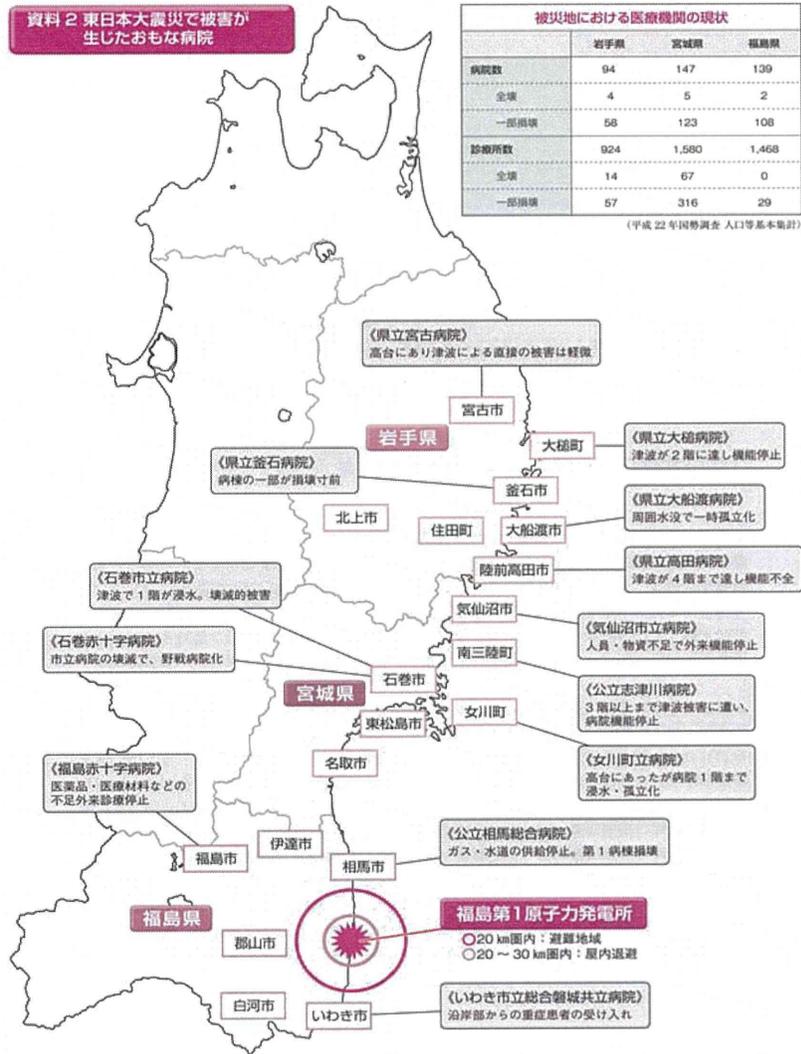
	人口総数	65歳以上人口	高齢化率(%)
全国	128,057,352	29,245,685	22.8
岩手県	1,300,147	300,498	27.1
宮古市	59,430	18,363	30.9
大船渡市	40,737	12,552	30.8
北上市	93,138	20,771	22.3
陸前高田市	23,300	8,125	34.9
釜石市	39,574	13,772	34.8
住田町	5,190	2,398	38.7
大槌町	15,276	4,948	32.4
宮城県	2,348,165	520,784	22.1
仙台市	1,045,986	191,722	18.3
石巻市	160,826	43,747	27.2
気仙沼市	73,489	22,600	30.8
東港市	73,134	13,845	19.1
南三陸町	42,903	9,932	23.1
女川町	10,051	3,362	33.4
陸三陸町	17,429	5,238	30.0
福島県	2,029,064	504,451	24.9
福島市	292,590	68,621	23.5
郡山市	338,712	67,956	20.1
いわき市	342,249	85,510	25.0
白河市	64,704	14,682	22.7
相馬市	37,817	9,577	25.3
伊達市	58,027	15,520	28.1
双葉町	6,932	1,879	27.1
浪江町	20,905	5,548	26.5

(平成22年国勢調査 人口等基本集計)



総務省統計局の東日本太平洋沿岸地域のデータ及び被災関係データ（2013年9月1日）より作成。
東日本大震災で特に被害の大きかった地域の人口動態と死亡者数と行方不明者数を記載

資料2 東日本大震災で被害が生じたおもな病院



	岩手県	宮城県	福島県
病院数	94	147	139
全壊	4	5	2
一部損壊	56	123	108
診療所数	924	1,580	1,468
全壊	14	67	0
一部損壊	57	316	29

(平成22年国勢調査 人口等基本集計)

- ◆研究責任者
宮下 光令 (東北大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 緩和ケア看護学分野)
- ◆研究者
菅野 喜久子 (石巻赤十字病院)

**現場力を上げるために
東日本大震災の体験を知る**
—在宅医療・がん治療・緩和ケア—

発行 2014年11月 [並売品]
 発行者 平成26年度 厚生労働科学研究費補助金
 地域医療基盤開発推進研究事業 研究統括者 堀田知光
 分担研究「被災地に展開可能ながん在宅緩和医療システムの構築に関する研究」班
 発行所 株式会社 青海社
 〒113-0031 東京都文京区根津1-4-4 河内ビル
 ☎03-5832-6171 FAX03-5832-6172
 装丁 スタジオ・エイト 吉野浩明&喜美子
 印刷所 モリモト印刷 株式会社

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍（外国語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
<u>Akechi T,</u> <u>Uchitomi</u> <u>Y</u>	PART12 Neuropsychiatrics 69 Depression/anxiety	Eduardo Bruera, Irene J. Higginson, Charles F. von Gunten, Tatsuya Morita	Textbook of Palliative Medicine and Supportive Care, Second Edition	CRC Press	Florida	2014	691-702

書籍（日本語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
<u>木下寛也.</u>	ホスピストライ アングル	川越正平 (編)	在宅医療バ イブル	日本医事新 報社	東京	2014	385-391
<u>小川朝生</u>	自信がもてる！ せん妄診療はじ めの一歩 誰も 教えてくれなか った対応と処方 のコツ	小川朝生	自信がもて る！せん妄 診療はじめ の一歩 誰 も教えてく れなかった 対応と処方 のコツ	羊土社	東京	2014	
<u>小川朝生</u>	7. せん妄への対 応	小川朝生、 内富庸介	ポケット精 神腫瘍学 医療者が知 っておきた いがん患者 さんの心の ケア	創造出版	東京	2014	61-80
<u>小川朝生</u>	8. 認知症への対 応	小川朝生、 内富庸介	ポケット精 神腫瘍学 医療者が知 っておきた いがん患者 さんの心の ケア	創造出版	東京	2014	81-90

<u>小川朝生</u>	医療従事者の心理的ケア	日本緩和医療学会	専門家をめざす人のための緩和医療学	南江堂	東京	2014	322-9
<u>小川朝生</u>	せん妄	日本緩和医療学会	専門家をめざす人のための緩和医療学	南江堂	東京	2014	244-53
<u>小川朝生</u>	うつ病と適応障害	日本緩和医療学会	専門家をめざす人のための緩和医療学	南江堂	東京	2014	235-43
<u>森田達也</u>	Ⅲ緩和医療学 13生命予後の予測	<u>川越正平</u> (編著)	家庭医療学、老年医学、緩和医療学の3領域からアプローチする在宅医療バイブル	日本医事新報社	東京	2014	366-371
<u>森田達也</u> (著), 他		<u>森田達也</u> (著), 他	緩和治療薬の考え方、使い方	中外医学社	東京	2014	
		恒藤暁, <u>森田達也</u> , <u>宮下光令</u> (編)	ホスピス緩和ケア白書 2014がんプロフェッショナル養成基盤推進プランと学会・学術団体の緩和ケアへの取り組み	青海社	東京	2014	
		日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会 (編集)	がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版	金原出版株式会社	東京	2014	
		日本緩和医療学会 (編集)	専門家をめざす人のための緩和医療学	株式会社南江堂	東京	2014	
<u>森田達也</u>		<u>森田達也</u> (編者)	プロフェッショナルがんナース	株式会社メディカ出版	大阪	2014	

			グ2014年別冊 これだけは押さえておきたいがん疼痛治療の薬ー非オピオイド鎮痛薬・オピオイド鎮痛薬・鎮痛補助薬ーはや調ベノート				
天野功二, 森田達也	第Ⅱ章消化器癌化学療法の実際. 消化器癌化学療法施行時の栄養管理と消化器癌患者に対する緩和医療. 消化器癌患者に対する緩和医療	大村健二 編	消化器癌化学療法. 改訂4版	南山堂	東京	2014	394-408
明智龍男	精神症状の基本	小川朝生, 内富庸介	医療者が知っておきたいがん患者さんの心のケア	創造出版	東京	2014	53-60
明智龍男	精神症状(抑うつ・不安、せん妄)	川越正平	在宅医療バイブル	日本医事新報社	東京	2014	340-346
明智龍男	支持的精神療法	堀川直史, 吉野相英, 野村総一郎	これだけは知っておきたい精神科の診かた、考え方	羊土社	東京	2014	42-144
明智龍男	危機介入	堀川直史, 吉野相英, 野村総一郎	これだけは知っておきたい精神科の診かた、考え方	羊土社	東京	2014	145-146
明智龍男	主要な精神症状のマネジメントとケア	恒藤暁, 内布敦子	系統看護学講座別巻緩和ケア	医学書院	東京	2014	210-232
清水研, 小川朝生, 明智龍男, et al	うつ病と適応障害	恒藤暁, 明智龍男, 荒尾晴恵, et al	専門家をめざす人のための緩和医療学	南江堂	東京	2014	235-243

奥山徹, 明智龍男, et al	睡眠障害	恒藤暁, 明智龍男, 荒尾晴恵, et al	専門家をめ ざす人のた めの緩和医 療学	南江堂	東京	2014	254-258
大谷弘行, 明智龍男, et al	心理的反応	恒藤暁, 明智龍男, 荒尾晴恵, et al	専門家をめ ざす人のた めの緩和医 療学	南江堂	東京	2014	278-285
吉内一浩, 明智龍男, et al:	コミュニケーシ ョン	恒藤暁, 明智龍男, 荒尾晴恵, et al	専門家をめ ざす人のた めの緩和医 療学	南江堂	東京	2014	286-294
石田真弓, 明智龍男, et al	家族ケアと遺族 ケア	恒藤暁, 明智龍男, 荒尾晴恵, et al	専門家をめ ざす人のた めの緩和医 療学	南江堂	東京	2014	313-321
平井啓,小 川朝生, 明智龍男, et al	医療従事者の心 理的ケア	恒藤暁, 明智龍男, 荒尾晴恵, et al	専門家をめ ざす人のた めの緩和医 療学	南江堂	東京	2014	322-327
聖路加国 際大学・緩 和ケア訪 問看護ス テーション 連絡会	平成26年度緩和 ケア訪問看護師 教育プログラム 講義テキスト	林 直子	平成26年度 緩和ケア訪 問看護師教 育プログラ ム 講義テ キスト		東京	2014 年	1-68

雑誌 (外国語)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
<u>Hiroya Kinoshita</u> , Isseki Maeda, <u>Tatsuya Morita</u> , <u>Mitsunori Miyashita</u> , Akemi Yamagishi, Yutaka Shirahige, Toru Takebayashi, Takuhiro Yamaguchi, Ayumi Igarashi, and Kenji Eguchi	Place of Death and the Differences in Patient Quality of Death and Dying and Caregiver Burden.	J Clin Oncol		in press	2014
Miura T, Matsumoto Y, Motonaga S, Hasuo H, Abe K, <u>Kinoshita H</u>	Dyspnea, Relative Youth and Low Daily Doses of Opioids Predict Increased Opioid Dosage in the Last Week of a Terminal Cancer Patient's Life	Jpn J Clin Oncol.	44 (11)	1082-7	2014
<u>Morita T</u> , Sato K, <u>Miyashita M</u> , Yamagishi A, Kizawa Y, Shima Y, <u>Kinoshita H</u> , Suzuki S, Shirahige Y, Yamaguchi T, Eguchi K	Does a regional comprehensive palliative care program improve pain in outpatient cancer patients?	Support Care Cancer.	22(9)	2445-55.	2014
Yamagishi A, Sato K, <u>Miyashita M</u> , Shima Y, Kizawa Y, Umeda M, <u>Kinoshita H</u> , Shirahige Y, Akiyama M, Yamaguchi T, <u>Morita T</u>	Changes in quality of care and quality of life of outpatients with advanced cancer after a regional palliative care intervention program.	J Pain Symptom Manage.	48(4)	602-10.	2014

Imura C, <u>Morita T</u> , Kato M, Akizuki N, <u>Kinoshita H</u> , Shirahige Y, Suzuki S, Takebayashi T, Yoshihara R, Eguchi K.	How and why did a regional palliative care program lead to changes in a region? A qualitative analysis of the Japan OPTIM study.	J Pain Symptom Manage.	47(5)	849-59	2014
Sasahara T, Watakabe A, Aruga E, Fujimoto K, Higashi K, Hisahara K, Hori N, Ikenaga M, Izawa T, Kanai Y, <u>Kinoshita H</u> , Kobayakawa M, Kobayashi K, Kohara H, Namba M, Nozaki-Taguchi N, Osaka I, Saito M, Sekine R, Shinjo T, Suga A, Tokuno Y, Yamamoto R, Yomiya K, <u>Morita T</u> .	Assessment of reasons for referral and activities of hospital palliative care teams using a standard format: a multicenter 1000 case description.	J Pain Symptom Manage.	47(3)	579-587	
T. Nakanotani, T. Akechi, T. Takayama, A. Karato, Y. Kikuuchi, N. Okamoto, K. Katayama, M. Yokoo and <u>A. Ogawa</u> .	Characteristics of elderly cancer patients' concerns and their quality of life in Japan: a Web-based survey.	Jpn J Clin Oncol	44(5)	448-55	2014
M. Yokoo, T. Akechi, T. Takayama, A. Karato, Y. Kikuuchi, N. Okamoto, K. Katayama, T.	Comprehensive assessment of cancer patients' concerns and the association with quality of life.	Jpn J Clin Oncol	44(7)	670-6	2014

Nakanotani and A. Ogawa.					
Shibayama O, Yoshiuchi K, Inagaki M, Matsuoka Y, Yoshikawa E, Sugawara Y, Akechi T, Wada N, Imoto S, Murakami K, <u>Ogawa A</u> , Akabayashi A, Uchitomi Y	Association between adjuvant regional radiotherapy and cognitive function in breast cancer patients treated with conservation therapy.	Cancer Med	3	702-709.	2014
S. Umezawa, D. Fujisawa, M. Fujimori, <u>A.</u> <u>Ogawa</u> , E. Matsushima, M. Miyashita.	Prevalence, associated factors and source of support concerning supportive care needs among Japanese cancer survivors.	Psychooncology	[Epub ahead of print]		2014
M. Yokoo, T. <u>Akechi, T.</u> Takayama, A. Karato, Y. Kikuuchi, N. Okamoto, K. Katayama, T. Nakanotani and <u>A. Ogawa.</u>	Comprehensive assessment of cancer patients' concerns and the association with quality of life.	Jpn J Clin Oncol	44(7)	670-6	2014
Shibayama O, Yoshiuchi K, Inagaki M, Matsuoka Y, Yoshikawa E, Sugawara Y, Akechi T, Wada N, Imoto S, Murakami K, <u>Ogawa A</u> , Akabayashi A, <u>Uchitomi Y</u>	Association between adjuvant regional radiotherapy and cognitive function in breast cancer patients treated with conservation therapy.	Cancer Med	3	702-709.	2014
S. Umezawa, D. Fujisawa, M. Fujimori, <u>A.</u> <u>Ogawa</u> , E. Matsushima,	Prevalence, associated factors and source of support concerning supportive care needs among	Psychooncology	[Epub ahead of print]		2014

M. Miyashita.	Japanese cancer survivors.				
Nakazawa Y, Morita T, Miyashita M, et al	One-year follow-up of an educational intervention for palliative care consultation teams.	Jpn J Clin Oncol	44(2)	172-179	2014
Igarashi A, Miyashita M, Morita T, et al	A Population-Based Survey on Perceptions of Opioid Treatment and Palliative Care Units: OPTIM Study.	Am J Hosp Palliat Care	31(2)	155-160	2014
Hirooka K, Miyashita M, Morita T, et al	Regional medical professionals' confidence in providing Palliative care, associated difficulties and availability of specialized palliative care services in Japan.	Jpn J Clin Oncol	44(3)	249-256	2014
Sasahara T, Kinoshita H, Morita T, et al	Assessment of reasons for referral and activities of hospital palliative care teams using a standard format: a multicenter 1000 case description.	J Pain Symptom Manage	47(3)	579-587	2014
Ise Y, Morita T, et al	The activity of palliative care team pharmacists in designated cancer hospital: a nationwide survey in Japan.	J Pain Symptom Manage	47(3)	588-593	2014
Imura C, Morita T, Kinoshita H, et al	How and why did a regional palliative care program lead to changes in region? A qualitative analysis of the Japan OPTIM Study.	J Pain Symptom Manage	47(5)	849-859	2014
Amano K, Morita T, et al	The determinants of patients in a palliative care unit being discharged home in Japan.	Am J Hosp Palliat Care	31(3)	244-246	2014

Otani H, <u>Morita T</u> , et al	Effect of leaflet-based intervention on family members of terminally ill patients with cancer having delirium: Historical control study.	Am J Hosp Palliat Care	31(3)	322-326	2014
Ando M, <u>Morita T</u> , <u>Miyashita M</u> , et al	A pilot study of adaptation of the transtheoretical model to narratives of bereaved family members in the bereavement life review.	Am J Hosp Palliat Care	31(4)	422-427	2014
Shimizu Y, <u>Miyashita M</u> , <u>Morita T</u> , et al	Care strategy for death rattle in terminally ill cancer patients and their family members: Recommendations from a cross-sectional nationwide survey of bereaved family members' perceptions.	J Pain Symptom Manage	48(1)	2-12	2014
<u>Miyashita M</u> , <u>Morita T</u> , et al	Care evaluation scale-patient version: measuring the quality of the structure and process of palliative care from the patient's perspective.	J Pain Symptom Manage	48(1)	110-118	2014
<u>Morita T</u> , <u>Miyashita M</u> , <u>Akechi T</u> , et al	Symptom burden and achievement of good death of elderly cancer patients.	J Palliat Med	17(8)	887-893	2014
Maeda I, <u>Miyashita M</u> , <u>Morita T</u> , et al	Progressive development and enhancement of palliative care services in Japan: Nationwide surveys of designated cancer care hospitals for three	J Pain Symptom Manage	48(3)	364-373	2014

	consecutive years.				
<u>Morita T</u> , <u>Miyashita M</u> , <u>Kinoshita H</u> , et al	Does a regional comprehensive palliative care program improve pain in outpatients cancer patients?	Support Care Cancer	22(9)	2445-2455	2014
<u>Yamagishi A</u> , <u>Miyashita M</u> , <u>Kinoshita H</u> , <u>Morita T</u> , et al	Changes in quality of care and quality of life of outpatients with advanced cancer after a regional palliative care intervention program.	J Pain Symptom Manage	48(4)	602-610	2014
<u>Odagiri T</u> , <u>Morita T</u> , et al	Convenient measurement of systolic pressure: the reliability and validity of manual radial pulse pressure measurement.	J Palliat Med	17(11)	1226-1230	2014
<u>Yoshida S</u> , <u>Morita T</u> , et al	A comprehensive study of the distressing experiences and support needs of parents of children with intractable cancer.	Jpn J Clin Oncol	44(12)	1181-1188	2014
<u>Morita T</u> , <u>Miyashita M</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Nurse Education Program on Meaninglessness in Terminally Ill Cancer Patients: A Randomized Controlled Study of a Novel Two-Day Workshop.	J Palliat Med	17(12)	1298-1305	2014
<u>Yamaguchi T</u> , <u>Morita T</u> , et al	Pneumocystic pneumonia in patients treated with long-term steroid therapy for symptom palliation: A neglected infection in palliative care.	Am J Hosp Palliat Care	31(8)	857-861	2014
<u>Nakajima K</u> , <u>Morita T</u> , et al	Psychologists involved in cancer palliative care in Japan: A nationwide	Palliat Support Care	Mar 13	[Epub ahead of print]	2014

	survey.				
Tanabe K, <u>Morita T</u> , et al	Evaluation of a novel information-sharing instrument for home-based palliative care: A feasibility study.	Am J Hosp Palliat Care	May 8	[Epub ahead of print]	2014
Amano K, <u>Morita T</u> , et al	Assessment of intervention by a palliative care team working in a Japanese general hospital: A retrospective study.	Am J Hosp Palliat Care	May 5	[Epub ahead of print]	2014
Yoshida S, <u>Miyashita M</u> , <u>Morita T</u> , et al	Strategies for development of palliative care from the perspectives of general population and health care professionals: A Japanese outreach palliative care trial of integrated regional model study.	Am J Hosp Palliat Care	Jun 5	[Epub ahead of print]	2014
Sekine R, <u>Miyashita M</u> , <u>Morita T</u> , et al	Changes in and associations among functional status and perceived quality of life of patients with metastatic/locally advanced cancer receiving rehabilitation for general disability.	Am J Hosp Palliat Care	Jun 5	[Epub ahead of print]	2014
Yamaguchi T, <u>Morita T</u> , et al	Palliative care development in the Asia-Pacific region: an international survey from the Asia Pacific Hospice Palliative Care Network (APHN).	BMJ Support Palliat Care	Jul 10	[Epub ahead of print]	2014
Yamagishi A, <u>Morita T</u> , <u>Kawagoe S</u> , <u>Miyashita M</u> , et al	Length of home hospice care, family-perceived timing of referrals, perceived quality of	Support Care Cancer	Aug 21	[Epub ahead of print]	2014

	ccare, and quality of death and dying in terminally ill cancer patients who died at home.				
Tsai JS, <u>Morita T</u> , et al	Consciousness levels one week after admission to a palliative care unit improve survival prediction in advanced cancer patients.	J Palliat Med	Sep 5	[Epub ahead of print]	2014
Amano K, <u>Morita T</u> , et al	Association between early palliative care referrals, inpatient hospice utilization, and aggressiveness of care at the end of life.	J Palliat Med	Sep 11	[Epub ahead of print]	2014
<u>Kinoshita H</u> , <u>Morita T</u> , <u>Miyashita M</u> , et al	Place of death and the differences in patients quality of death and dying and caregiver burden.	J Clin Oncol	Dec 22	[Epub ahead of print]	2014
Baba M, <u>Morita T</u> , <u>Kawagoe S</u> , et al	Independent validation of the modified prognosis palliative care study (PiPS) predictor models in three palliative care settings.	J Pain Symptom Manage	Dec 11	[Epub ahead of print]	2014
Fujimori M, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Effect of communication skills training program for oncologists based on patient preferences for communication when receiving bad news: a randomized control trial	J Clin Oncol	32(20)	2166-2172	2014
Fujimori M, <u>Uchitomi Y</u>	Reply to B. Gyawali et al	J Clin Oncol	33(2)	223-224	2015
<u>Morita T</u> , <u>Miyashita M</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Nurse Education Program on Meaninglessness in Terminally Ill Cancer	J Palliat Med	17(12)	1298-1305	2014

	Patients: A Randomized Controlled Study of a Novel Two-Day Workshop				
Shibayama O, <u>Akechi T</u> , <u>Ogawa A</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Association between adjuvant regional radiotherapy and cognitive function in breast cancer patients treated with conservation therapy	Cancer Med	3(3)	702-709	2014
Terada S, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Development and evaluation of a short version of the quality of life questionnaire for dementia	Int Psychogeriatr	27(1)	103-110	2014
<u>Akechi T</u> , et al	Contribution of problem-solving skills to fear of recurrence in breast cancer survivors	Breast Cancer Res Treat	145	205-10	2014
Azuma H, <u>Akechi T</u>	What domains of quality of life are risk factors for depression in patients with epilepsy?	Austin journal of psychiatry and behavioral sciences	1	4	2014
Azuma H, <u>Akechi T</u>	Effects of psychosocial functioning, depression, seizure frequency, and employment on quality of life in patients with epilepsy	Epilepsy Behav	41	18-20	2014
Banno K, <u>Akechi T</u> , et al	Neural basis of three dimensions of agitated behaviors in patients with Alzheimer disease	Neuropsychiatr Dis Treat	10	339-48	2014
Katsuki F, <u>Akechi T</u> , et al	Multifamily psychoeducation for improvement of mental health among relatives of patients with major depressive disorder lasting more than one year: study protocol for a randomized	Trials	15	320	2014

	controlled trial				
Momino K, <u>Akechi T</u> , et al	Psychometric Properties of the Japanese Version of the Concerns About Recurrence Scale (CARS-J)	Jpn J Clin Oncol	44	456-62	2014
<u>Morita T</u> , <u>Miyashita M</u> , <u>Akechi T</u> , et al	Symptom burden and achievement of good death of elderly cancer patients	J Palliat Med	17	887-93	2014
Nakanotani T, <u>Akechi T</u> , et al	Characteristics of elderly cancer patients' concerns and their quality of life in Japan: a Web-based survey	Jpn J Clin Oncol	44	448-55	2014
Reese JB, <u>Akechi T</u> , et al	Cancer patients' function, symptoms and supportive care needs: a latent class analysis across cultures	Qual Life Res			2014
Shibayama O, <u>Akechi T</u> , et al	Association between adjuvant regional radiotherapy and cognitive function in breast cancer patients treated with conservation therapy	Cancer Med	3	702-9	2014
Shiraishi N, <u>Akechi T</u> , et al	Relationship between Violent Behavior and Repeated Weight-Loss Dieting among Female Adolescents in Japan	Evid Based Ment Health	9	e107744	2014
Shiraishi N, <u>Akechi T</u> , et al	Brief psychoeducation for schizophrenia primarily intended to change the cognition of auditory hallucinations: an exploratory study	J Nerv Ment Dis	202	35-9	2014
Suzuki M, <u>Akechi T</u> , et al	A failure to confirm the effectiveness of a brief group psychoeducational	Neuropsychiatr Dis Treat	10	1141-53	2014

	program for mothers of children with high-functioning pervasive developmental disorders: a randomized controlled pilot trial				
Yamauchi T, <u>Akechi T</u> , et al	Death by suicide and other externally caused injuries after stroke in Japan (1990-2010) : the Japan Public Health Center-based prospective study	Psychosom Med	76	452-9	2014
Yamauchi T, <u>Akechi T</u> , et al	Death by suicide and other externally caused injuries following a cancer diagnosis: the Japan Public Health Center-based Prospective Study	Psychooncology	23	1034-41	2014
Yokoo M, <u>Akechi T</u> , et al	Comprehensive assessment of cancer patients' concerns and the association with quality of life	Jpn J Clin Oncol	44	670-6	2014
Ito Y, <u>Akechi T</u> , et al	Good death for children with cancer: a qualitative Study	Jpn J clin Oncol			in press
Kawaguchi A, <u>Akechi T</u> , et al	Hippocampal volume increased after cognitive behavioral therapy in a patient with social anxiety disorder: a case report	The Journal of Neuropsychiatry and Clinical Neurosciences			in press
Kondo M, <u>Akechi T</u> , et al	Analysis of vestibular-balance symptoms according to symptom duration: dimensionality of the Vertigo Symptom Scale-short form	Health and Quality of Life Outcomes			in press

Shiraishi N, <u>Akechi T</u> , et al	Contribution of repeated weight-loss dieting to violent behavior in female adolescents	PLOS ONE				in press
<u>Akechi T</u>	Depressed with cancer can respond to antidepressants, but further research is needed to confirm and expand on these findings	Evid Based Ment Health				in press
<u>Akechi T</u> , et al	Difference of patient's perceived need in breast cancer patients after diagnosis	Jpn J Clin Oncol				in press
Igawa S, Gohda K, Fukui T, Ryuge S, Otani S, Masago A, Sato J, Murakami K, Maki S, Katono K, Takakura A, <u>Sasaki J</u> , Satoh Y, Masuda N.	Circulating tumor cells as a prognostic factor in patients with small cell lung cancer.	Oncol Lett.	7	1469-1473	2014	
Igawa S, Kasajima M, Ishihara M, Kimura M, Hiyoshi Y, Asakuma M, Otani S, Katono K, <u>Sasaki J</u> , Masuda N.	Comparison of the Efficacy of Gefitinib in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer according to the Type of Epidermal Growth Factor Receptor Mutation.	Oncology.	87	215-223	2014	
Ishihara M, Igawa S, Maki S, Harada S, Kusahara S, Niwa H, Otani S, <u>Sasaki J</u> , Jiang SX, Masuda N.	Successful chemotherapy with nab-Paclitaxel in a heavily treated non-small cell lung cancer patient: a case report.	Case Rep Oncol.	7	401-406	2014	
Igawa S, Kasajima M, Ishihara M,	Evaluation of gefitinib efficacy according to body	Chemother Pharmacol.	74	939-946	2014	